

ナンバリング	授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
Co11061A ②	憲 法	2単位	レポート・科目試験
授業のテーマ及び学習成果			
<p>近代以降の法と政治に関わる普遍的な考え方であり、現代国家の憲法の多くが国民主権とともに基本原理としている「立憲主義」ないし「近代立憲主義」について、その明確な表現が、フランス人権宣言（1789年）16条（「権利の保障」が確保されず、「権力の分立」が定められていない社会は、すべて憲法をもつものではない）に示されています。「立憲主義」に基づく憲法の最も重要な目的は、「国家権力を制限して国民の権利・自由を守る」ということにあります。</p>			
<p>この「立憲主義」が、(1)日本国憲法にどのように採用され、具体化されているか、(2)日本国憲法における「立憲主義」の採用や具体化には、どのような特徴があるか、というのが、授業の基本的なテーマになります。</p>			
《学習成果》			
<p>上記のテーマに関する学習の結果、(1)日本国憲法が採用・具体化している「立憲主義」の基本原則と仕組みについて、(2)「立憲主義」の採用・具体化が不十分であった明治憲法への反省から導入された規定・制度、すなわち、日本国憲法に特徴的な規定・制度について、理解することができるようになります。(3)さらに、議会や国民の多数派による少数派への迫害などが問題になっている現代において、立憲主義の課題は、専制政治を防ぎ、個人の人権を確保する「立憲民主主義」の実現にあることを理解することができるようになります。</p>			
<p>受講生の日本国憲法への理解は、自学自習に加えて、レポートの作成、科目試験受験対策学習などが加わることによって、より深まることになります。</p>			
授業の概要			
<p>授業では、(1)日本国憲法が採用している「立憲主義」の基本原則とそれを具体化するための仕組みすなわち、憲法の最高法規性、個人の尊重を基本理念として基本的人権を保障し国家権力を制限する仕組み、国民主権、権力分立および法の支配の原則による正当な国家統治の仕組み、憲法の保障権限・最終的な有権的解釈権限を裁判所に与える違憲審査制（立憲主義憲法をもつ大多数の国が採用している制度）などについて学習します。さらに、(2)日本国憲法において、「立憲主義」の基本原則の採用や具体化に加えて、明治憲法体制への反省から導入された特徴的な憲法規定・制度、すなわち、象徴天皇制、平和主義を具体化した「戦争の放棄」・戦力の不保持、家庭生活における両性の平等と個人の尊厳、現代の社会国家原理に立った人権（社会権）の保障、刑事手続きの手厚い保障、国会の地位の「国権の最高機関」化、違憲審査制の導入、地方自治の保障などについても学習します。</p>			
実務経験の概要			
授業計画 テキストによる通信授業			
<ol style="list-style-type: none"> 1. <憲法とは何か> 憲法の意味、憲法の分類、立憲主義、近代憲法、現代憲法など 2. <(1)日本憲法の歴史、(2)日本国憲法の構造と基本原則> (1)明治憲法の性格、日本国憲法の制定、日本国憲法制定の法理、(2)前文の意味・構成、本文の構成、日本国憲法の基本原則：①国民主権、②基本的人権の尊重、③平和主義など 3. <(1)象徴天皇制、(2)平和主義> (1)天皇の地位、皇位の継承、天皇の権能、(2)日本国憲法の平和主義、戦争の放棄、戦力の不保持、交戦権の否認など 4. <(1)基本的人権の原理、(2)基本的人権の享有主体と限界> (1)人権宣言の歴史、人権の観念、人権尊重の原理、新しい人権、(2)人権の享有主体：国民、未成年者、天皇・皇族、外国人などが享有する人権、人権と「公共の福祉」、私人間における人権の保障など 5. <生命・自由・幸福追求権> 個人の尊重と幸福追求権、幸福追求権の内容、幸福追求権の射程など 6. <法の下での平等> 平等の意味、日本国憲法における平等原則、不合理な差別の禁止（平等原則違反の具体的事例）など 7. <(1)思想・良心の自由、(2)信教の自由> (1)思想・良心の自由の意味、思想・良心の自由の保障態様、(2)信教の自由の内容、国家と宗教の分離（政教分離）の原則（政教分離の限界、政教分離に関する判例）など 			

8. <(1)学問の自由、(2)表現の自由>

(1)学問の自由の内容、大学の自治、(2)表現の自由の規制、表現の自由の形態：①報道・取材の自由、②性的表現の自由、③名誉棄損表現、④知る権利・アクセス権など、集会・結社の自由と限界、通信の秘密の内容と限界など

9. <身体的自由権（人身の自由）>

奴隷的拘束・苦役からの自由、適正手続の保障、被疑者の権利、刑事被告人の権利、拷問および残虐刑の禁止など

10. <経済的自由権>

職業選択の自由、居住・移転の自由、外国移住・国籍離脱の自由、財産権など

11. <社会権>

憲法25条、生存権の法的性格、生存権の内容、環境権の根拠、教育を受ける権利の意義（「子どもの学習権」説、教育権の所在）、教育を受ける権利の法的性格・内容、労働権の内容、労働基準の法定、児童酷使の禁止、労働基本権の内容と限界など

12. <(1)国務請求権、(2)参政権、(3)国民の義務>

(1)請願権、裁判を受ける権利、国家賠償請求権、刑事補償請求権、(2)公務員の選定・罷免権、(3)教育を受けさせる義務、勤労の義務、納税の義務など

13. <(1)立憲民主制の原理と制度、(2)国会と立法権>

(1)日本国憲法における権力分立、国民主権と代表民主制、選挙権の意味と法的性格、日本国憲法と政党、(2)国会と立法権、国会の地位と性格、二院制、国会の権能、議院の権能など

14. <(1)内閣と行政権、(2)裁判所と司法権>

(1)内閣の地位と性格、議院内閣制、内閣の権能、内閣の責任、(2)司法権の概念・範囲、裁判所の構成と権能、司法権の独立、違憲審査制など

15. <(1)財政、(2)地方自治、(3)憲法改正>

(1)財政民主主義、租税法律主義、予算と決算、(2)地方自治の本旨、地方公共団体の権能、住民自治、(3)憲法改正の手続、日本国憲法改正の限界など

テキスト

「憲法」（配本テキスト）

参考書・参考資料等

芦部信喜著・高橋和之補訂『憲法（第8版）』岩波書店（2023年）ISBN：4-00-061607-2

野畑健太郎・東裕編『憲法学事始〔第二版〕』一学舎（2018年）ISBN：978-4904027172

『ポケット六法』有斐閣（2023年）ISBN：978-4641009240

学生に対する評価

学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する
（評価はルーブリック評価を用いる）

科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する
（評価はルーブリック評価を用いる）

ナンバリング	授業科目名	単位数	学習形態
In11161A ①	情報リテラシーと処理技術	2単位	レポート・科目試験・スクーリング
授業のテーマ及び学習成果			
<p>情報システムの発展と役割について理解を深め、これからの情報化社会を生きる上で必要となる基礎知識と技術を身に付けます。</p> <p>《学習成果》</p> <p>レポート：情報セキュリティについて理解し、適切な管理ができるようになる。</p> <p>科目試験：「コンピュータの機能」「インターネット」「情報モラル」「情報セキュリティ」の概要について理解した上で、それらの知識を活用できるようにする。</p> <p>スクーリング：ワープロ・表計算ソフトの基本操作／情報モラル・情報セキュリティの概要を理解する。</p>			
授業の概要			
<p>テキスト教材を中心に情報システムの発展、コンピュータ（ハードウェア・ソフトウェア）、情報ネットワークなどの仕組みについて理解を深めます。また、演習を通じ、パソコンの基本操作、ワープロソフトの基本操作、表計算ソフトの基本操作を学習します。</p>			
実務経験の概要			
授業計画 テキストによる通信授業とスクーリングによる面接授業			
【通信授業】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報化社会 2. コンピュータの発展 3. ハードウェア 4. ソフトウェア 5. 情報ネットワーク 6. インターネット 7. 情報システムの課題 	【面接授業】	<ol style="list-style-type: none"> 1. Windows の基本操作 2. 文書作成の基本①（基本操作・書式設定） 3. 文書作成の基本②（図形・表・ページ設定） 4. 表計算の基本①（基本操作・書式設定） 5. 表計算の基本②（計算式・関数・グラフ機能） 6. 情報モラル・情報セキュリティ 7. 教育現場における ICT の活用と展望について 8. まとめ
時間外学習の時間の目安と内容			
<p>【事前学習】 時間の目安：1時間程度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Windows システムツールの「エクスプローラー」の操作について習熟する。 ・Word、Excel、PowerPoint のメニュー操作について習熟する。 <p>【事後学習】 時間の目安：1時間程度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で、情報モラル・セキュリティに意識を向け、積極的に ICT 機器を活用し、Word や Excel などの操作方法を定着させる。 			
テキスト			
「情報リテラシーと処理技術」（配本テキスト）			
参考書・参考資料等			
<p>「情報セキュリティ10大脅威2023」（独立行政法人情報処理推進機構 2023.10.31現在） https://www.ipa.go.jp/security/10threats/ps6vr70000009r2f-att/kaisetsu_2023.pdf</p> <p>「情報セキュリティ10大脅威 知っておきたい用語や仕組み」（独立行政法人情報処理推進機構 2023.10.31現在） https://www.ipa.go.jp/files/000089490.pdf</p> <p>「標準教科書改訂新版よくわかる情報リテラシー」岡本敏雄監修（技術評論社）（ISBN：9784774191423）</p> <p>「キーワードで学ぶ最新情報トピックス2023」（日経 B P）（ISBN：978-4296070565）</p>			
学生に対する評価			
<p>【通信授業】 学習状況の確認：レポート課題における専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する （評価はルーブリック評価を用いる）</p> <p>科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する （評価はルーブリック評価を用いる）</p> <p>【面接授業】 科目の成績評価：スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する （評価はルーブリック評価を用いる）</p> <p>※科目試験50%、スクーリング50%の平均により成績評価を行う</p>			

ナンバリング	授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
He11141B②	健 康 科 学	1 単位	レポート・科目試験
授業のテーマ及び学習成果			
<p>健康は基本的には自分で管理・守るべきものである。近年、健康に関する情報が多く、個人の価値観や健康のとらえ方も多様化している。健康の3要素とストレス対処法について学び、現在の自分の生活を見直すことが重要である。</p> <p>本講義では、客観的に状況を分析し、科学的な健康づくりを学ぶことにより、自己の健康・体力づくりができるようになることを目的とする。</p>			
≪学習成果≫			
<p>レポート：「現代社会の健康観」とはどのようなものか、また健康を維持増進していくためには、運動、栄養、休養の3要素を日常生活にどのように取り入れていけばよいかを説明できるようになる。</p> <p>科目試験：運動の基礎理論および体力を知ることにより、自ら健康な生活を送ることができるようになる。</p>			
授業の概要			
健康科学のテキストにより科学的健康・体力づくりの方法を学ぶ。			
実務経験の概要			
授業計画 テキストによる通信授業			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康な生活設計 自己の健康管理について、喫煙・飲酒が及ぼす身体影響を考える 2. 運動の基礎理論 利便化された現代人の運動不足と健康管理について学ぶ 3. 運動生理学 運動が身体に及ぼす影響、運動と呼吸、運動と筋肉、運動と神経についての知識を高める 4. 救命救急 救急処置についての知識と対処法、AEDの取扱い方を学ぶ 5. 運動処方① 運動処方の内容について学ぶとともに、運動場面で多発している熱中症の対処法を学ぶ 6. 運動処方② ウォーミングアップとクーリングダウンについて学ぶ 7. 健康日本21 「健康日本21」から自己の健康への課題を探る 8. 生活と運動 自己のライフスタイルでの健康・体力づくりを学ぶ 			
テキスト			
「健康科学」(配本テキスト)			
参考書・参考資料等			
特になし			
学生に対する評価			
<p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する (評価はルーブリック評価を用いる)</p> <p>科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する (評価はルーブリック評価を用いる)</p>			

ナンバリング	授業科目名	単位数	学習形態
Ph11151A ①	スポーツ(実技)	1単位	スクーリング
授業のテーマ及び学習成果			
<p>生涯にわたって運動やスポーツに親しみ、自ら実践できる能力を身に付けることを目的とする。各種目に関する知識や技能を身に付け、健康と安全に留意しながら個人的・集団的スポーツを楽しむとともに、将来の指導者として作戦の立て方や審判の仕方、競技の運営方法について学ぶ機会とする。各種のスポーツを仲間とともに楽しみ、技能面の上達及び自己の体力・健康の保持・増進を図る。また、ニュースポーツも体験・理解するなど、生涯にわたってスポーツに親しむ能力を育成する。</p> <p>《学習成果》</p> <p>スクーリング：バレーボール・バドミントン・バスケットボール・卓球・ニュースポーツなどを仲間とともに楽しみ、ルールを理解し、技能の上達を図る。また、審判や試合運営についても学ぶ。</p>			
授業の概要			
<p>各種スポーツを仲間とともに体験し、技能の上達を図りスポーツの楽しさを味わう。仲間と身体活動を行う中で、自己の体力・健康の保持増進を図る。また、指導者としての視点で、運動やスポーツの指導法や競技運営について学ぶ。</p>			
実務経験の概要			
授業計画 スクーリングによる面接授業			
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス（授業の見通し・個人目標の設定等） 2. バレーボール①基本練習 3. バレーボール②応用練習 4. バレーボール③ゲーム・審判 5. 体づくり運動、エアロビクス運動、創作ダンス 6. バドミントン①基本練習・シングルのゲーム 7. バドミントン②ダブルスのゲーム 8. ドッジボール（運営方法及びゲーム） 9. バスケットボール①基本練習・応用練習 10. バスケットボール②ゲーム・審判 11. 卓球①基本練習 12. 卓球②シングルのゲーム 13. 卓球③ダブルスのゲーム 14. ニュースポーツ学ぶ（ティーボールなど） 15. ウォーキングとその効果について 授業の振り返り、今後に向けて 			
<p>※施設・用具の都合で実施できない場合は、他の種目に替える場合もあります。その際、個人的・集団的スポーツをバランスよく取り扱う。</p>			
時間外学習の時間の目安と内容			
<p>【事前学習】 時間の目安：自己の能力に応じ日頃から体力づくりを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の能力に応じて、ウォーキング、ジョギング、軽スポーツなど行い、体づくりを行っておく。 ・自己の得意なスポーツを見る、する、ささえるなどの知識と技術を学習しておく。 <p>【事後学習】 時間の目安：自己の能力に応じ日頃から体力づくりを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたってスポーツに親しみ、自ら積極的に取り組む態度を養い、実践する。 ・スポーツを見る、する、ささえるなど、スポーツを通じて豊かな生活を実現する。 			
テキスト			
「健康科学」（配本テキスト）			
参考書・参考資料等			
特になし			
学生に対する評価			
<p>科目の成績評価：スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する。 （評価はルーブリック評価を用いる）</p>			

ナンバリング	授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
En12033B ①	英語コミュニケーション	2単位	レポート・科目試験
授業のテーマ及び学習成果			
<p>今日では幼稚園や保育園に外国人の園児が入園してくることもあり、保育現場で英語を使う機会も増えている。本科目では、英語表現の基礎となる文法・構文の復習を行うとともに、保育の現場で必要な英語表現を運用できる力を身に付けることを目標とする。</p> <p>≪学習成果≫</p> <p>レポート：比較的平易な英語で書かれた物語および子どもの発達に関する英文の内容を理解することができる。</p> <p>科目試験：英語表現の基礎となる文法・構文を用いて英文を作ることができるとともに、子どもの発達に関する英文の内容を理解することができる。</p>			
授業の概要			
<p>本テキストは3つのChapterからなっている。Chapter1は基礎的な項目が中心で、基礎が理解できていない人はまずChapter1を丁寧に学習して、英語の基礎を理解するよう努力する。英語の基礎に自信がある人はChapter1にはあまり時間をかけずにChapter2に進み、英語の理解を深める。Chapter3では、保育の現場でのさまざまな生活場面を題材にした英文や英語表現の学習を通して、保育者と子どもや保護者とのコミュニケーションに使われる英語表現や連絡事項の書き方などを学習する。</p>			
実務経験の概要			
西村 豊：高等学校38年			
授業計画 テキストによる通信授業			
Chapter1			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語の文法（動詞、形容詞・副詞） 2. 英語の文法（比較、代名詞、疑問詞） 3. 英語の文法（進行形、完了形、受動態） 			
Chapter2			
<ol style="list-style-type: none"> 4. 英語の基礎構文（5文型） 5. 英語の基礎構文（修飾語句） 6. 英語の基礎構文（接続詞、仮定法） 			
Chapter3			
<ol style="list-style-type: none"> 7. 入園準備 8. 登園・降園 9. 室内遊び 10. 外遊び 11. 健康・病気・けが 12. 運動・お散歩 13. 食事 14. 工作・お絵かき 15. おたより・行事 			
テキスト			
「英語コミュニケーション」（配本テキスト）			
参考書・参考資料等			
「新・保育の英語」森田和子著（三修社）（ISBN：9784384333992）			
学生に対する評価			
<p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。 （評価はルーブリック評価を用いる）</p> <p>科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。 （評価はルーブリック評価を用いる）</p>			